

日常会話における「美化語」の使用傾向の分析

—『日本語日常会話コーパス』(CEJC)を用いて—

滝島雅子

【キーワード】美化語、CEJC、話し言葉、敬語、接頭辞

1. はじめに

美化語は、「「お菓子」や「ごほうび」のように、美化語接頭辞「お」と「ご」が名詞に付いてできる敬語」(川口、2014、p.1682)とされる。敬語を尊敬語・謙讓語・丁寧語の三分類とする考え方では、「美化語」の類は、「です・ます」と同様に丁寧語とされてきたが、辻村(1967)が、「です・ます」と「お菓子」では性質が違うことを「対者敬語」と「素材敬語」の考え方から説明し、後者を丁寧語と区別して「美化語」と呼んだ¹。以来、この呼び名は広く認知されるようになり、文化審議会答申「敬語の指針」(2007)でも、「ものごとを、美化して述べるもの」(p.21)として敬語の五分類²の1つに位置づけられている。

しかし、かつて寿岳(1964)が「「お」「ご」は(中略)機能が明らかでないほど安易に使われている。(中略)いわばあいまいな「お」「ご」が多いのである」(p.335)と述べたように、一言で「美化語」と言っても、その様相は実に多様で複雑である。滝島(2020)は、TV番組の中で使われる美化語を分析し、美化語が相手に対する待遇意識から使われる場合もあれば、自己の品位保持や事物の美化のために使われる場合もあることを指摘し、その多様な様相の一端を示した。また、「お」「ご」を付ければどのような語でも美化語として適切に使えるという訳ではなく、「一般的には付けない語に「お」を付けると、美化語の過剰使用として奇異に映ることになる」(菊地、2022、p.60)という指摘もある。「お」を付けるとおかしい語から「お」を付けないとおかしい語まで様々な段

¹ これについて辻村編(1991)では「「お天気」「お茶」は、「天気」「茶」を上品に、美しく言うのに用いられたものであり、「です」「ます」は、相手に直接敬意を表すのに用いられたものである。これらのことから、丁寧語の中を、二分した方がよいように思われる」(p.7)としている。

² 「敬語の指針」では、尊敬語・謙讓語Ⅰ・謙讓語Ⅱ・丁寧語・美化語を敬語の五分類としている。

階があり、実際には個人差も大きい（菊地 1994）ことも、「美化語」というカテゴリーを曖昧でわかりにくいものになっている。

一方、日本語教育においても、「美化語」の導入に関する課題がこれまでたびたび指摘されてきた（川口 1986、井上 2011、郭 2011 ほか）。井上（2011）は、「お」の付き方について学生にアンケート調査をしたところ、間違いが目立ち、そのパターンも全く違うことに触れ、日本語教育の教科書や参考書は、語例が少なく包括的でないこと、語を分類していないので用法の差がわからないことなどをあげて学習者への配慮に欠けると指摘する。滝島（2022）が行った美化語に関するアンケート調査でも、学習者の多くが美化語についてまとまった説明を受けたことがなく、「お」を付けるべきか否か判断に難しさを感じるという回答が目立った。

「美化語」というカテゴリーを理解し、学習者へわかりやすく説明するためには、まずは、日本語母語話者による現代日本語の実際のコミュニケーションにおける美化語の使用傾向を捉える必要がある。そのために、本稿では、実際の日常会話を集めた大規模なコーパスである『日本語日常会話コーパス』（Corpus of Everyday Japanese Conversation: 以下 CEJC）を分析データとして、計量的な分析を試みる。複雑で捉えにくい「美化語」という言語現象を、頻度という指標を元に分析することで、実際の現代日本語のコミュニケーションにおいて、どのような美化語が、どのような表現主体によって、どのような場面で使われているのかを浮き彫りにすることが期待できる。

2. 先行研究

名詞に敬語接頭辞の「お」や「ご」が付く敬語名詞に関する研究は多岐にわたる。まず、語彙レベルの大規模な研究・調査としては、東京在住の主婦を対象に『日本語アクセント辞典』（1951）から無作為に抽出した語に関して、接頭辞「お」の付く程度をアンケート調査した柴田（1957）があり、「食事、心の動き、感情、体の働きに関する語には付きやすい」などの傾向をつかんだ。また、田中（1972）は、国立国語研究所の「新聞の語彙調査」資料の分析により、「お」が和語に、「ご」が漢語に付く傾向について報告した。

また、文化庁も『国語に関する世論調査』で過去 2 回（1997 年、2006 年）「菓子」「酒」などへの「お」の付け方をたずねており、約 10 年で「お」の使用が増加していることを報告している。この調査結果をもとにした 2000 年代の井上史雄氏の一連の研究（井上 2010, 2011 ほか）や鐘水（2021）によって、都市部の 30 代主婦が美化語の接頭辞「お」の付

けすぎを牽引し男性が追隨する増加メカニズムがあることや、若い世代ほど男女差が減少していること、東京を中心に伝播・普及しつつあることなどが明らかになっている。

多様な「お」「ご」が付く言葉の整理を試みたものとしては、戦後に国語審議会が示した「これからの敬語」（1952）のほか、寿岳（1964）、菊地（1994）、井上（2007）などがある。特に菊地（1994：pp.373-376）は、美化語を以下のように分類している（語例は筆者が抜粋）。

- ①「お／ご」が付いて1つの語になっていて、「お／ご」を取り払うと語として事実上成り立たないもの（「おかず」「お辞儀」など）
- ②「お／ご」の付かない形も語としては成り立つが、「お／ご」の付いた形はこれとは多少とも違った意味で使われるもの（「お／ご」が付くことで、意味が転化したり、特定の狭い意味・ニュアンスをもって使われたりするもの）（「おかわり」「おしゃれ」など）
- ③「お／ご」の付かない形も、同じ意味（中略）の語として成り立つもの（「お祝い」「お菓子」など）

こうした分類について菊地（2022）では、「「お」を付ける人の多い・少ない、あるいは、語として「お」がなじむ度合の高い・低い、といった種々の段階があるようである」（p.61）と述べているが、それ以上の分析は行っていない。

また、実際のコミュニケーションを対象に分析したものは少なく、世論調査も語彙が限られているため、現代日本語における美化語の使用を包括的に捉えた調査研究が求められる。筆者は滝島（2020）において、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese：BCCWJ)とCEJCの比較により、書き言葉と話し言葉それぞれの「美化語」の語彙の特徴を指摘したが、当時CEJCは、モニター公開版であったため、対象データが50時間に限られていた。

3. 研究目的

本稿では、2022年3月に本公開されたCEJCの200時間のデータを対象に分析を行う。現代日本語の日常会話における「美化語」の使用の実態を明らかにするため、以下の2つの研究課題を設定する。ここで、現代日本語の中でも、日常会話のコーパスを対象に分析を行うのは、学習者のニーズとして、「会話における敬語の使用」が大きな比重を占めているためである（沢井1991）。

研究課題 1: 現代日本語の日常会話では、どのような美化語がどのくらい使われているのか。

研究課題 2: 現代日本語の日常会話において、美化語の使用頻度は、どのような因子の影響を受けるのか。

以上 2 つの研究課題を明らかにすることで、現代の日本語の日常会話のコミュニケーションにおける「美化語」の使用を包括的に捉え、学習者への効果的な導入のための基礎研究としたい。

4. 研究方法

4.1 分析データ

本稿では、分析データとして『日本語日常会話コーパス』（以下 CEJC）を用いる。CEJC は、さまざまなタイプの日常会話約 200 時間をバランスよく収録した大規模なコーパスである（小磯ほか 2022）。CEJC は、個人密着法と特定場面法という 2 つの方法を用いてデータを収録しており、含まれる話者数は、日本語母語話者、延べ 1,675 名、異なり 862 名、総語数は 2,419,171 語である³。

CEJC に収録されているのは、「収録のために集められた状況での会話でなく、日常場面の中で当事者たち自身の動機や目的によって自然に生じた会話」（小磯ほか 2022：p.1）であることから、CEJC データの分析によって、現代日本語の日常会話における美化語の実態を捉えることが期待できる。

表 1 に、CEJC の年齢・性別ごとの話者数と語数を示した。

表 1 CEJC の年代・性別ごとの話者数と語数

年齢	男性			女性			計		
	延べ話者数	異なり話者数	語数	延べ話者数	異なり話者数	語数	延べ話者数	異なり話者数	語数
10代以下	98	44	79,031	53	36	49,111	151	80	128,142
20代	123	56	220,979	123	45	177,143	246	101	398,122
30代	121	60	204,285	163	55	220,994	284	115	425,279
40代	100	41	166,377	150	88	270,404	250	129	436,781
50代	108	57	159,730	164	77	312,294	272	134	472,024
60代	119	49	172,717	100	47	185,741	219	96	358,458
70代以上	72	49	102,927	50	32	79,841	122	81	182,768
不明	57	56	5,867	74	70	11,730	131	126	17,597
合計	798	412	1,111,913	877	450	1,307,258	1675	862	2,419,171

³ CEJC の詳しい収録方法や話者情報などは、小磯ほか（2022）を参照されたい。

CEJC のデータは、20 代～60 代までの成人についてはいずれの世代の男女ともバランスよく収録できているが、10 代以下については、20 代以上と比べて数が少ない（小磯ほか 2022：p.24）点を指摘しておく。

4.2 分析の手順

分析は、以下の 3 つのステップで行った。

【ステップ 1】まず、CEJC のデータから検索ツールの「中納言」を使って<語彙素「御」+普通名詞>のパターンの検索を行い、<「お」「ご」「御」+普通名詞>の用例を 9,003 件得た⁴。なお、本稿では、以下<「お」「ご」「御」+普通名詞>の語を「敬語名詞」と呼ぶ。

【ステップ 2】ステップ 1 で得られた敬語名詞の全体像を把握するため、用例を 1 件ずつ、その機能と形式に注目してラベリングを行うことによって分類し、それぞれの語彙と頻度を調べた。使用したラベルを表 2 に示す。なお、以下のうち、敬語の説明については「敬語の指針」（2007）による。語例については、CEJC で抽出された語から典型例を示した。

表 2 敬語名詞のラベル

ラベル	説明	語例
尊敬語	相手側又は第三者の行為・ものごと・状態などについてその人物を立てて述べるもの	お気遣い、ご配慮、お気持ち、ご負担、お名前、ご住所
謙譲語	自分側から相手側又は第三者に向かう行為・ものごとなどについて、その向かう先の人物を立てて述べるもの	(立てるべき人物への) お願い、ご挨拶、ご案内
美化語	ものごとを美化して述べるもの	お酒、お料理
呼称	「お～さん（さま、ちゃん）」「ご～さま（さん）」などの形式で、主に人や職業、親しみを込めて事物を呼ぶ時に使われる語	おかあさん、おじいちゃん、お医者さま、ご朱印さん
あいさつ語	主に「お～さま」「ご～さま」の形式で、あいさつ語として使われる語	お疲れさま、ご苦労さま
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞として機能する敬語形式の一部 ・慣用句の一部 ・固有名詞 ・名詞以外の品詞として使われるもの 	<u>ご説明</u> する <u>お気</u> に召す <u>御鷹</u> の道（地名） <u>お先</u> に（副詞）

今回、敬語名詞に限定して分析を行うため、「ご説明する」の下線部のように、敬語名詞が動詞として機能する敬語形式の一部として使われている場合や、「お気に召す」の下線部のように慣用句の一部として使

⁴ 中納言の検索で得られた 9,005 件のうち、欠損データ 2 件を除く 9,003 件を分析データとした。

われている場合、また固有名詞や名詞以外の品詞として機能する場合は「その他」とし、分析の対象外とした。

なお、今回「美化語」とした語の中には、「お化け」のように接頭辞がないと成立しない語や、「おしゃれ」のように接頭辞が付くと意味やニュアンスが変わる語、「おみくじ」のように接頭辞がなくても意味は通じるが、通常は慣用として接頭辞を付けて使われる語も含まれる。こうした語は、もともとは「お」や「ご」の接頭辞を付けることによって敬意を表する語として使われていたが、現代では敬意が低減し通常語化・一語化した語、ないしは通常語化・一語化する過程にある語と捉えられる。一方、こうした固定的な用法に対して、一般的に美化語として捉えられる語は、随意的である。「金(かね)」という言い方に対して「お金」, 「米」という言い方に対して「お米」というように、通常語(あるいはぞんざいな言い方)と丁寧な言い方との対立関係として捉えられ、その語を使う場面や表現主体によっては接頭辞が付くこともあるし付かないこともある。しかし、語によって様々な段階のものが、「固定的な用法」と「随意的な用法」の線引きが難しいため、本稿では、ひとまず、語の成り立ちから考えて、すべて美化語として扱うこととした。

【ステップ 3】 ステップ 2 で得られた美化語の用例について、その頻度および美化語の出現率によって階層的クラスター分析を行った。クラスター法は WARD 法を使用し、距離はユークリッド距離を用いた。また、CEJC がセッションや話者に関して提供しているメタ情報を使い、その使用頻度に影響を与える因子を探った。

5. 結果と考察

5.1 CEJC における敬語名詞の様相

まずは、敬語名詞全体を整理する。CEJC データでは、9,003 件の敬語名詞が使われ、その機能や形式に注目して分類した結果、その内訳は、図 1 のようになった。美化語が最も多く 57% (5,086 件) と 6 割近くを占め、次いで呼称が 33% (2,944 件)、尊敬語が 5% (489 件)、あいさつ語が 2% (193 件)、謙譲語は少なく (43 件) 1% にも満たなかった。敬語名詞は、美化語としての使用が圧倒的に多いことがわかる。

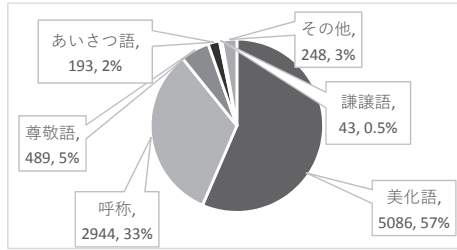


図 1 CEJC の敬語名詞の分類

次に、各分類の高頻度語（上位 20 語以内）を表 3 に示す。

表 3 敬語名詞の分類ごとの高頻度語彙

No.	尊敬語	頻度	謙譲語	頻度	美化語	頻度	呼称（+さん、様 ^{22/23} ）	頻度	あいさつ語	頻度
1	ご主人	48	お願い	9	お金	536	お母	843	お疲れ（さま）	94
2	お二人	23	ご挨拶	9	お茶	373	お父	593	ごちそう（さま）	76
3	お名前	20	お伺い	4	お店	262	おばあ	433	ご苦労（さん）	11
4	ご意見	18	ご招待	4	お酒	175	お兄	221	ご苦労（さま）	8
5	お家元	15	ご相談	3	おうち	156	おじい	211	お世話（さま）	2
6	お顔	15	ご報告	3	お肉	127	お客	207	お邪魔（さま）	1
7	お宅	13	お届け	2	お菓子	125	お姉	160	（よい）お年（を）	1
8	ご注文	11	お預かり	2	お昼	120	お子	52		
9	ご本人	11	ご案内	2	お風呂	117	お嬢	33		
10	お口	10	ご用意	2	お皿	99	お医者	31		
11	お仕事	10	ご紹介	1	お互い	96	お嫁	22		
12	お話し	10	ご説明	1	お弁当	90	お坊	18		
13	ご自宅	10	ご注意	1	お湯	83	おかん	12		
14	ご実家	10			お水	81	お日	12		
15	お時間	8			お土産	81	おいな	8		
16	ご家族	7			お友達	81	お姫	8		
17	ご自分	7			お尻	64	お孫	7		
18	ご質問	7			お花	62	おあにい	6		
19	ご都合	7			お盆	60	おひな	6		
20	ご予約	7			お仕事	56	お不動	6		

尊敬語は「ご主人」が最も多い（48 件）。使われるのは日常会話で「（主に相手の）夫婦のうちの夫」のことを言う以下のような場面である。

- (1) ……うちに帰ると関西弁が出るってゆうのは# ご主人 関西ですか
 #いや#関東です#ですよ#おっしゃってましたね#…
 （会話 ID K002_003b）

「ご主人」という言い方には、男女平等の立場から批判も多いが、適当な代替語がないことから、日常会話では依然使われている実態が垣間

見える。ほかに、「お名前」「ご意見」「お顔」など、相手に属する事物についての語が多い。

一方、謙譲語は、全体の頻度が低く語彙も限られる。「ご挨拶」「ご招待」「ご相談」など、動作名詞に「ご」が付くパターンが主である。

美化語で最も多いのは「お金」であり、「お茶」「お店」と続く。生活の中の身近なものに付き、特に「お茶」「お酒」「お肉」「お菓子」「お皿」「お弁当」など「食」に関する語が目立つ。

また、「お～さん」「お～様」などの呼称については、日常会話は家族同士の会話や家族の話題が多いことを反映して家族の呼称が多く使われ、「お母（「さん」など）」が特に多く、「お父（「さん」など）」「おばあ（「ちゃん」など）」「お兄（「ちゃん」など）」「おじい（「ちゃん」など）」が続く。

あいさつ語は食事終了時の「ごちそうさま」を上回り「お疲れさま」が最も多く使われていた。

5.2 CEJCにおける美化語の様相

4.2の手順により、CEJCからは、延べ数 5,086 語、異なり数 375 語の美化語語彙が抽出された。本項以降は、CEJCの敬語名詞の分類のうち、美化語に注目して分析を進める。

5.2.1 CEJCの美化語語彙

まず、CEJCから抽出された美化語の語彙の具体的な語群として、高頻度の美化語（60語）を表4に示す。これら60語は全て語形の「オ」⁵が付いた語となった。改めて、美化語全体で見ると、接頭辞の語形の内訳は、表5の結果となり、美化語は、圧倒的に「オ」が付く語が多く、「ゴ」が付く語は、「ごちそう」「ご一緒」「ご縁」などごく一部に限られることが明らかになった。また、接頭辞が付く名詞の語種に注目すると、内訳は表6の通りとなり、接頭辞「お」「ご」に後続する名詞は、和語が多いことがわかる⁶。さらに、接頭辞の語形と後続名詞の語種の接続に注目すると、そのパターンは表7の通りとなった。「オ」が和語名詞に付くパターンが最も多く、延べ数で3,354語（66%）、次いで「オ」が漢語名詞に付くパターンが延べ数1,552語（31%）であった。従来の敬語

⁵ 本稿では、語彙素の「御」の語形について表すときは、「オ」「ゴ」のようにカタカナで示す。

⁶ 本稿では、語種については、CEJCが採用している形態素解析辞書 UniDicの語種情報に則り分析を行った。

表 4 CEJC の高頻度美化語（60 語）

No	美化語	粗頻度	No	美化語	粗頻度	No	美化語	粗頻度
1	お金	536	21	お寺	47	41	お蕎麦	22
2	お茶	373	22	お墓	47	42	お部屋	22
3	お店	262	23	お話し	47	43	お手伝い	21
4	お酒	175	24	お料理	46	44	お酢	21
5	おうち	156	25	お箸	43	45	お猪口	20
6	お肉	127	26	お魚	42	46	お礼	20
7	お菓子	125	27	お味噌	41	47	お塩	19
8	お昼	120	28	お正月	39	48	お知らせ	19
9	お風呂	117	29	お醤油	38	49	お茶碗	18
10	お皿	99	30	お砂糖	37	50	お年寄り	18
11	お互い	96	31	お祭り	36	51	お花見	17
12	お弁当	90	32	お豆腐	36	52	お得	16
13	お湯	83	33	お豆	35	53	お香	15
14	お水	81	34	お寿司	32	54	お刺身	14
15	お土産	81	35	お煎餅	31	55	お食事	14
16	お友達	81	36	お代わり	30	56	お通し	14
17	お尻	64	37	お野菜	30	57	お買い物	14
18	お花	62	38	おしまい	26	58	お墓参り	14
19	お盆	60	39	お金持ち	26	59	お薬	14
20	お仕事	56	40	お米	25	60	おつゆ	13

表 5 接頭辞の語形（「オ」／「ゴ」）の内訳

	「オ」＋名詞	「ゴ」＋名詞	合計
延べ数	5,032	54	5,086
異なり数	361	14	375

表 6 CEJC の美化語の名詞の語種

	和語	漢語	外来語	混種語	合計
延べ数	3,354	1,606	22	104	5,086
異なり数	217	118	8	32	375

表 7 接頭辞の語形と後続名詞の語種

「オ」が付く美化語			「ゴ」が付く美化語		
「オ」＋語種	延べ数	異なり数	「ゴ」＋語種	延べ数	異なり数
オ＋和語	3,354	217	ゴ＋和語	0	0
オ＋漢語	1,552	104	ゴ＋漢語	54	14
オ＋外来語	22	8	ゴ＋外来語	0	0
オ＋混種語	104	32	ゴ＋混種語	0	0
合計	5,032	361	合計	54	14

名詞の「オ」「ゴ」の付着ルールでは、田中（1972）の報告でも明らかのように、和語には「オ」が付き、漢語には「ゴ」が付くのが一般的とされる一方で、一部の語には例外もあることが指摘されてきた。CEJCデータの美化語では、「ゴ」が和語に付くパターンはなかったが、「オ」が漢語に付くパターンは、3割にのぼることが明らかになった（「お茶」「お肉」「お菓子」など）。ただし、かねて指摘されてきた「お返事」「ご返事」のような、同じ漢語名詞に「オ」も「ゴ」も付くパターンはCEJCからは抽出されなかった。また、従来のルールでは、外来語には「お」はつけないとされているが、「「オ」+外来語」の美化語も異なり数で8語抽出された。

それぞれの接続パターンの頻度が高い語10語（以内）を表8に示した。これらの語は、学習者が「お」「ご」の名詞への付着について学ぶ際の典型例として示すことが有効であろう。ただし「「お」+外来語」の語彙については、「おトイレ」「おソース」「おビール」などは話し手によっては使用されるが、過剰敬語や不自然な敬語という印象を持たれる場合もあるため、注意喚起が必要である。また、「おリボン」「おズボン」は、CEJCでは、幼児に関連した場面で使われており、親愛語（幼児語）としての使用と見られる。「おデパート」に関しては、あえて誤用的な「お」を使うことで皮肉をこめた言い方であることを付け加えておく。

表8 「お」「ご」と後続名詞の語種のパターンごとの美化語語彙

No	「お」+和語		「お」+漢語		「お」+外来語		「お」+混種語		「ご」+漢語	
	美化語	頻度	美化語	頻度	美化語	頻度	美化語	頻度	美化語	頻度
1	お金	536	お茶	373	おズボン	8	お値段	12	ごちそう	11
2	お店	262	お肉	127	おトイレ	6	お昼ご飯	11	ご縁	10
3	お酒	175	お菓子	125	おニュー	2	御庭番	8	ご一緒	7
4	おうち	156	お弁当	90	おリボン	2	お雑煮	7	ご時世	6
5	お昼	120	お盆	60	おソース	1	お茶屋	7	ご褒美	6
6	お風呂	117	お料理	46	おデパート	1	お肉屋	7	ご用	3
7	お皿	99	お味噌	41	おハイソ	1	お盆休み	5	御朱印	3
8	お互い	96	お正月	39	おビール	1	お節介	4	ご愛嬌	2
9	お湯	83	お醤油	38			お荷物	3	ご意見番	1
10	お水	81	お砂糖	37			お膳立て	3	ご進物	1

5.2.2 CEJCの美化語の慣用度

本項では、美化語語彙の慣用度に注目して分析を行う。表4の語彙を1つずつ見ていくと、「お」を付けない形ではあまり使われない語（「お猪口」など）から、「お」を付けることも付けないこともある語（「お店」「お酒」「お水」など）まで、様々な段階のものが混在している。菊

地（2022）が指摘するように、「「お」を付ける人の多い・少ない、あるいは、語として「お」がなじむ度合の高い・低い、といった種々の段階がある」（p. 61）と見られる。

そこで、本項では、その「段階」の様相を、「美化語出現率」（滝島2018）という指標を用いて分析を試みる。「美化語出現率」とは、言語コーパスなどのデータにおいて、ある普通名詞を用いてその普通名詞が意味する事物が表現される場合、普通名詞単体を使用する場合（非美化語）と普通名詞に敬語接頭辞を付けて美化語の形式にして表現される場合とが考えられる。前者と後者の総体のうち、後者の占める割合を「美化語出現率」とし、その割合が高いほど、その名詞を使う場合に「美化語が使われやすい」と判断する。「美化語出現率」は、以下の計算式で算出される。

$$\text{美化語出現率 (\%)} = \frac{\text{当該語の美化語の頻度}}{\text{当該語の非美化語と美化語の総体の頻度}} \times 100$$

美化語は、前述のように、「種々の段階」がある。「公園」「信号」のように、接頭辞「お」「ご」を付けるとおかしな語もあれば、「お」「ご」を付けないと意味が通じない語や意味が変わってしまう語（「お猪口」「お代わり」など）もある。そして、その間にある、中間的な段階の「「お」を付けることも付けなくてもある語」の中にも、慣用が進み「お」や「ご」を付けるのが普通である語（「お茶」など）もあれば、「お弁当」のように「お」「ご」を付けるか否かに男女差があるもの、「お紅茶」など個々人の語感によって違いがあるものなど、様々な要因によって、使用頻度が異なる語群があると思われる。そうした美化語の段階的な使用実態において、「美化語出現率」は、その語が美化語としてどの程度慣用化しているかを示す指標と捉えることができる。

表4の60語について、それぞれの美化語の頻度と当該語の非美化語の頻度から、「美化語出現率」を算出し、その値の大きい順に表9に示した。

これを見ると、美化語は、常に接頭辞を付けた状態で使われる美化語出現率100%の語から（「お代わり」「お知らせ」）、当該語の全体の使用から見ると2%しか接頭辞を付けて使われない語（「お話し」）まで、語によって、様々な使用の状況があることがうかがえる。

こうした美化語の使用頻度や美化語としての慣用度（美化語出現率）をもとに、クラスター分析を行ったところ、図2のような結果が得られた。クラスター分析は、Ward法、平方ユークリッド距離の設定で行った。その結果、5つのクラスターが得られた。

表 9 CEJC の高頻度美化語 60 語の美化語出現率

No	美化語	粗頻度	美化語出現率 (%)	No	美化語	粗頻度	美化語出現率 (%)	No	美化語	粗頻度	美化語出現率 (%)
1	お代わり	30	100	21	お通し	14	78	41	お豆腐	36	35
2	お知らせ	19	100	22	お風呂	117	76	42	お花	62	34
3	お互い	96	97	23	お店	262	66	43	お醤油	38	33
4	お尻	64	96	24	おつゆ	13	65	44	お米	25	31
5	お茶	373	95	25	お弁当	90	64	45	お砂糖	37	28
6	お猪口	20	95	26	お金持ち	26	62	46	お魚	42	26
7	お盆	60	94	27	お昼	120	56	47	お味噌	41	25
8	お香	15	94	28	お正月	39	54	48	お年寄り	18	24
9	お土産	81	89	29	お煎餅	31	53	49	お料理	46	21
10	お墓参り	14	88	30	お得	16	53	50	お水	81	19
11	お湯	83	87	31	お酒	175	52	51	お買い物	14	17
12	お寺	47	84	32	お手伝い	21	51	52	お友達	81	16
13	お礼	20	83	33	お酢	21	50	53	お食事	14	13
14	お菓子	125	82	34	お箸	43	47	54	お菓	14	12
15	お墓	47	82	35	お寿司	32	46	55	お野菜	30	11
16	お祭り	36	82	36	お刺身	14	44	56	お塩	19	11
17	お金	536	81	37	お茶碗	18	41	57	おうち	156	10
18	おしまい	26	81	38	お肉	127	40	58	お仕事	56	7
19	お花見	17	81	39	お豆	35	38	59	お部屋	22	7
20	お血	99	78	40	お蕎麦	22	38	60	お話し	47	2

5 つのクラスターの妥当性を検証するため、得られたクラスターを独立変数、美化語の粗頻度と美化語出現率を従属変数とした分散分析を行った結果、粗頻度、美化語出現率ともに有意な群間差が見られた（粗頻度： $F(4, 55) = 81.169, p < .001$ 、美化語出現率： $F(4, 55) = 83.028, p < .001$ ）。

表 10 には、それぞれのクラスターごとの語彙を、また、表 11 には、クラスターごとの延べ数と異なり数を示した。この結果から、CEJC の美化語は、頻度と美化語出現率のレベルによって、クラスター1 からクラスター5 までの 5 つのクラスターで捉えることができる。

まず、クラスター1 は、頻度が非常に高く、美化語出現率も 66～95% と高い語であるため、CEJC の日常会話では、頻繁に使われる美化語語彙と捉えることができる。特に「お茶」は美化語出現率が 95% と高く、ほぼ「お」を伴って使われる。CEJC の日常会話では、「日本茶」「紅茶・コーヒーなどの飲み物の総称」「ティーブレイク」「茶道」など多様な意味で使われている。

クラスター2 は、頻度は比較的低いが美化語出現率が非常に高いグループである。中でも「お代わり」「お知らせ」の美化語出現率は 100% で、常に「お」が付いた形で使われる固定化用法と見ることができる。ほかにも「お互い」（97%）「お尻」（96%）など総じて美化語出現率が非常に高く、いずれも通常、慣用的に「お」を付けて使われ、「お」を付けないと違和感や乱暴な印象につながる語である。

表 10 CEJC の美化語のクラスターとその語彙

クラスター	CEJCの美化語	クラスターの特徴
1	お茶 お店 お金	頻度が非常に高く、出現率も比較的高い。
2	お尻 お盆 お土産 お湯 お互い お代わり お知らせ お猪口 お香 お墓参り お寺 お墓 お祭り お礼 お花見 おしまい お通し	頻度は低い、出現率が高い。
3	お皿 お風呂 お菓子 お弁当 お昼 お酒 お肉 おうち	頻度が高く、出現率は語によって幅がある。
4	お茶碗 お蕎麦 お刺身 お豆腐 お醤油 お豆 お米 お花 おつゆ お金持ち お箸 お寿司 お正月 お煎餅 お手伝い お酢 お得	頻度は低く、出現率は30～70%。
5	お食事 お薬 お塩 お買い物 お野菜 お部屋 お仕事 お話し お水 お友達 お魚 お味噌 お砂糖 お料理 お年寄り	頻度も出現率も低い。

表 11 クラスターごとの美化語の延べ数と異なり数

クラスター	延べ数	異なり数
1	1, 171	3
2	689	17
3	1, 009	8
4	476	17
5	578	15

クラスター3 は、クラスター1 に次いで頻度が高いグループである。「お皿」「お菓子」「お弁当」など「食」に関する語が並ぶ。美化語出現率は、10%（「おうち」）から82%（「お菓子」）までばらつきがあるが、頻度が高いため、今後、慣用が進む可能性がある語と捉えられる。

クラスター4 は、美化語出現率が、30%台から60%台までばらつきがあり、美化語の使われやすさ（慣用度）は語によってかなり異なる。「おつゆ」（65%）「お金持ち」（62%）など、6割は美化語が使用される語がある一方、「お花」（34%）「お醤油」（33%）「お米」（31%）などは、美化語出現率が3割に留まる。美化語を使うか否かの判断には、性差、年代差、場面差、個人差などが関係するものと考えられる。

そして、クラスター5 は、頻度も美化語出現率も、ともに低く、日常会話では、限定的な（一般的でない）美化語のグループと捉えることができる。

ここで留意すべきは、美化語を「ものごとを美化する敬語」と捉えた場合、頻度や美化語出現率が高いクラスター1 から3 の語彙は、美化語としての敬意（美化する意識）は、「敬意逓減の法則」によってかなり低下しているか、語によっては、通常語化が進み、敬意は消失していると考えられる点である。「敬意逓減の法則」とは、「同じ語形の敬意の度合いが、使われているうちに下がる現象で、敬語のすり減り、インフレ、

Ward 法を使用するデンドログラム
再調整された距離クラス結合

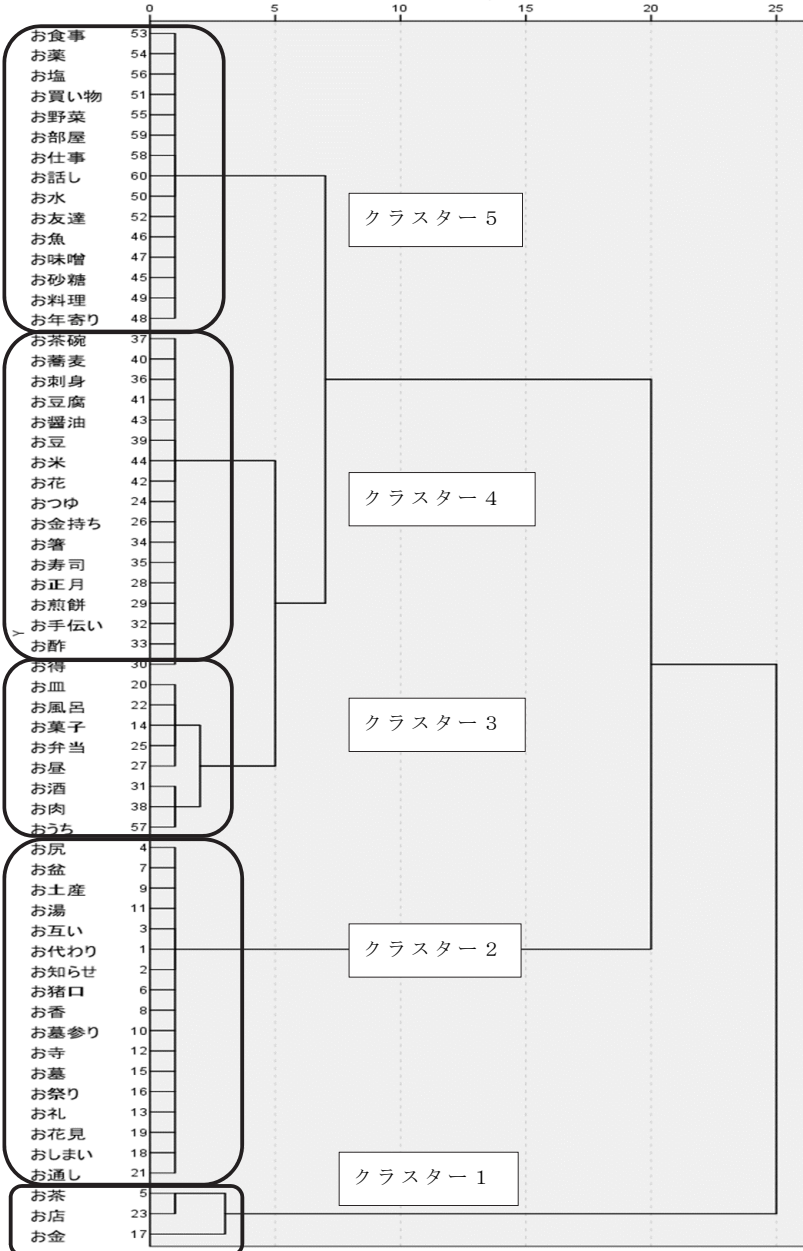


図 2 CEJC の美化語の頻度と美化語出現率によるデンドログラム

待遇価値の下落ともいわれる」（井上 2022：p.206）現象である。頻度や美化語出現率が高ければ高いほど敬意は逡減し、もはや美化語というより通常語に近い感覚で使われるようになる。美化語出現率が100%の「お代わり」「お知らせ」は、その典型と言えよう。こうした語群は、慣用の状況を考慮して、「「お／ご」＋名詞」という形式をデフォルトとして使用することが無難な語であり、逆に「お」や「ご」を付けないと、コミュニケーション上、違和感につながるリスクを伴う。一方、クラスター4とクラスター5の美化語は、発話者が「お／ご」をつけるかどうかは随意的であり、使われる場面や発話者の属性によって判断が求められる語と言える。学習者に対しては、以上のような美化語の段階的な使用状況や慣用の状況を踏まえ、場面に適した表現やコミュニケーション主体となる学習者自身がどのような表現をめざしたいかによって、美化語を使用するかどうか判断できるよう促すことが重要になってくると思われる。特にクラスター4とクラスター5の語群の扱いについては、個別の語ごとに、使用傾向を見極める必要があるが、その検討は、今後の課題としたい。

5.2.3 美化語の世代差と性差

5.2.1と5.2.2では、CEJCの美化語語彙の語種や慣用度といった言語内的な特徴を見てきた。本項以下は、美化語語彙群の使用傾向が、言語外的要因によってどのように影響を受けるかを見ていく。

まず、CEJCデータの美化語の頻度を年代・性別ごとに見ると表12のようになる。

表12 CEJCにおける年代・性別ごとの美化語の粗頻度

年代	男性	女性	計
10代以下	149	63	212
20代	158	327	485
30代	266	501	767
40代	281	685	966
50代	197	987	1,184
60代	241	717	958
70代以上	153	281	434
不明	24	56	80
合計	1,469	3,617	5,086

このデータをもとに、表1の性別ごとの語数から調整頻度(Per Million Words : PMW) を算出し、美化語の使用頻度の年代・性別による違いを比較したところ、図3のようになった。

10代を除き、女性の頻度が男性を上回り、井上(2011)が指摘したように、美化語の使用を牽引しているのは、女性であることがわかる。また、女性の10代から60代にかけてと男性の20代から40代にかけての美化語の使用は、年代が上がるにつれて増えていく傾向にある。井上(2011)は、「「お」は成人後採用 late adoption の典型例」(p.276)

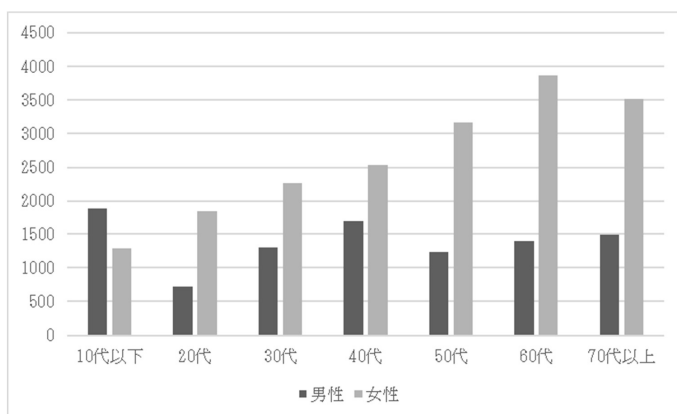


図3 CEJCにおける美化語の年代別・性別の調整頻度 (PMW)

と述べた。一般の言語変化はまず若い世代が採用して、徐々に上の世代に広がっていくのが一般的なのに対して、敬語は、年を取るにつれて次第に使いこなせるようになる成人後採用の特徴があり、美化語の使用はその典型だと指摘した。図3の年代・性別ごとのCEJCの美化語の使用傾向にもその一端を見ることができよう。ただし、男性の美化語使用は、10代以下を除き40代にピークがあるものの、その後は、いったん減少し、年齢が上がっても使用頻度は横ばいが続いている。40代は男女ともに美化語をよく使用する世代であることが指摘できるが、これは、子育て世代であることと関連していると予測できる。年代が上がるにつれ、女性のみが美化語の使用を増やし、男性は横ばいであるのは、美化語が女性にとって役割語として機能することも後押しして、コミュニケーションにおいて年齢とともに使いこなすようになる一方、男性にとっては、美化語を使わないことが逆に男性という役割を示すアイコンになっている

ることによって使用が抑制的になるのだと考えられる。この点は、成人後採用が行われる他の多くの敬語の傾向とは異なる可能性が指摘できる。

10代以下については、前述のように、CEJCの元々のデータ自体が少ないため、ここでは参考程度となるが、20代以降の頻度の傾向との違いがうかがえる。10代以下の美化語使用の内訳を見ると、「0-4歳」が55件（PMW：6,746）、「5-9歳」が20件（PMW：1,817）となっており、5歳未満の幼児の美化語の頻度が高い。美化語と幼児語の関連については、後で述べる。

次に、CEJCにおける男女それぞれの高頻度語上位20語ずつをリストアップし（異なり数24語）、各語について、性別・年代別の頻度を調べ（表13）、これをもとにコレスポンデンス分析を行い、性別・年代によって使用する美化語にどのような特徴があるかを探った（図4）。

表13 CEJCの高頻度語の性別・年代別粗頻度

No	美化語	男性				女性				合計
		若年層 (~20代)	中年層 (30~50代)	高年層 (60代~)	不明	若年層 (~20代)	中年層 (30~50代)	高年層 (60代~)	不明	
1	お金	21	147	86	2	39	171	70		536
2	お茶	36	51	19		32	130	99	6	373
3	お店	12	44	21		20	125	37	3	262
4	お酒	13	28	24	1	44	42	23		175
5	おうち	10	11	7		14	88	26		156
6	お肉	7	8	4		17	55	35		127
7	お菓子	4	19	9		6	53	23		125
8	お昼	1	23	14		23	53	23		120
9	お風呂	6	16	4		6	59	26		117
10	お皿	4	14	4	2	21	40	10	4	99
11	お互い	13	20	12		6	32	13		96
12	お弁当	2	15	2		5	55	11		90
13	お湯	4	6	8		3	42	17	3	83
14	お水	0	6	1		3	38	29	4	81
15	お友達	3	6	2		3	37	30		81
16	お土産	4	14	2		6	39	13		81
17	お尻	2	6	3		1	47	5		64
18	お花	5	5	9		4	32	9		62
19	お盆	2	10	8		4	26	5		60
20	お仕事	3	18	0		0	25	10		56
21	お墓	0	4	4		1	3	35		47
22	お寺	9	3	13		2	11	9		47
23	お話し	1	12	6		3	20	4		47
24	お祭り	0	16	3		0	6	35		36

分析の結果、イナーシャの寄与率は、次元1が36.7%、次元2が25.0%で、累積寄与率は61.7%となり、2つの次元でデータの分散の6割は説明できるという結果となった。第1軸上では、右方向に若年層男性、中年層男性、高年層男性が、左方向に中年層女性と高年層女性が布置され

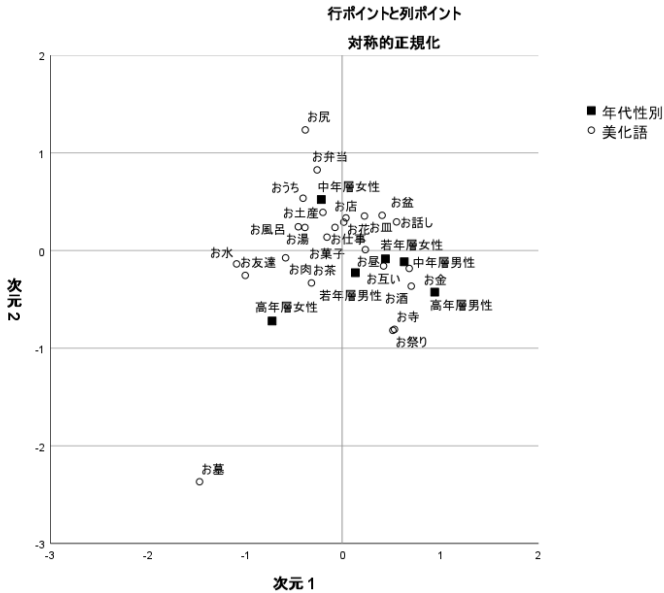


図4 CEJCの美化語の相関分析(性別+年代)

ていることから、第1軸は、性差を示す軸だと考えられる。右にプロットされる語は、より男性に使われやすく(「お話し」「お互い」「お金」「お寺」「お祭り」など)、左にプロットされる語は女性に使われやすい美化語(「お水」「お友達」「お肉」など)と考えられる。ただ、若年層女性は右方向に置かれ、逆に若年層男性は右方向でも左側に極めて近い位置にあることから、若年層の美化語の使用傾向は、女性の男性化、あるいは男性の女性化が起き、結果的に男女差が減少していると考えられる。これは鎌水(2021)の「若い世代ほど男女の差は減少している」(p. 118)という指摘とも合致する。一方、第2軸上では、上部に中年層女性が布置され、それ以外のグループが下部に置かれているが、これは、井上(2011)が指摘する「都市部の30代主婦が「美化語需要層」として、美化語の接頭辞「お」の付けすぎを牽引し、男性が追随するパターン」(p. 384)を象徴しているように見える。中年層の女性が「お弁当」「おうち」「お土産」「お店」などを先行して多く使用し「お」の増加を牽引していると考えられる。また、相関分析では、平均的なものほど原点(0, 0)に近くプロットされるが、「お菓子」「お昼」などは、原点に近くプロットされ、年代・性別にかかわらず使われている美化語と見ることができる。ここで、第3象限にある「お墓」と第4象限にある「お尻」に

については原点から距離があるが、CEJC の元データを確認したところ、特定の話者が集中的に使用した結果⁷であることがわかったため、ここでは特に言及しない。

5.2.4 美化語が使われる職業

続いて職業別の頻度を見てみる。以下の表 14 の職業別の美化語の粗頻度と総語数から、調整頻度 (PMW) を算出し比較すると図 5 のようになった。

「就学前の子ども」が最も多く、次いで、「専業主婦・主夫」「パート・アルバイト」「自営業・自由業」の順に多くなっている。頻度が高いために「就学前の子ども」については、前述のようにデータが少ないため、ここではあくまでも参考程度に触れるが、頻度が低い「小学生」「中高生」「大学生・大学院生」とは、明らかに違う様相を呈している。その語彙には、「お豆」「お猿」「お人形」「お手々」「おズボン」など、他の職業区分にはない美化語が含まれる。美化語は親愛語 (幼児語) と連続性があることがこれまでも指摘されており (井上 2011 : p. 273 ほか)、今後、データを拡充し、さらに詳しい検証が望まれよう。

表 14 CEJC における職業別の美化語の粗頻度と総語数

職業	語数	総語数
パート・アルバイト	651	244,016
会社員・役員・公務員・専門職	1,502	934,665
自営業・自由業	1,186	480,786
専業主婦・主夫	951	260,875
大学生・大学院生	282	222,412
中高生	85	71,588
小学生	55	34,165
就学前	57	8,321
無職・定年退職	255	141,659
その他	15	11,628
不明	47	9,056
合計	5,086	2,419,171

⁷ 「お墓」については、60代女性が配偶者と自宅で夕食をとりながら友人の墓について盛んに述べており、「お尻」については、スタジオでのピラティスのレッスンで50代のインストラクターが「お尻を持ち上げて…」などのように参加者に指導する場面で多用している。

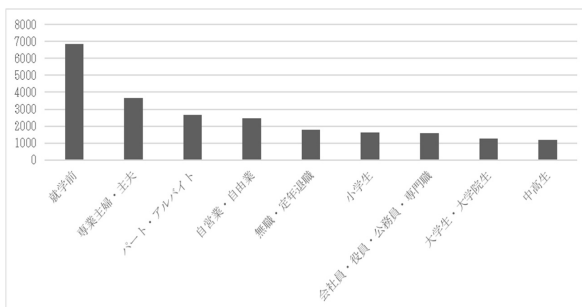


図 5 CEJC における美化語の職業別の調整頻度 (PMW)

「就学前の子ども」を除けば、「専業主婦・主夫」が最も頻度が高い。井上 (2011) が、世論調査における「お」の実際の使用で、女性に多い職種で「お」の使用率が高く、「主婦」が最高であることを指摘したことも合致する。

5.2.5 美化語が使われる会話形式

CEJC では、「雑談」「会議・会合」など、会話の形式に関してもメタ情報を付与している。この情報をもとに分析を行うことにより、美化語が日常会話のどのような会話形式においてよく使われるかを探ることができる。

CEJC データの美化語の頻度を会話形式ごとに見ると以下の表 15 のようになる。

表 15 CEJC における会話形式ごとの美化語の粗頻度と総語数

形式名	粗頻度	総語数
雑談	4,008	1,659,893
用談・相談	774	450,102
会議・会合	246	259,430
授業・レッスン	58	49,746
総計	5,086	2,419,171

これをもとに、会話形式ごとに調整頻度を算出し比較すると図 6 のようになった。

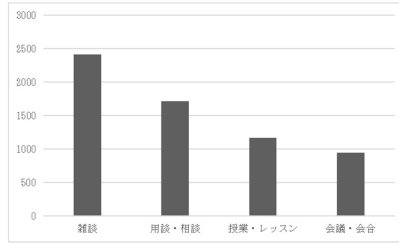


図 6 CEJC における美化語の会話形式ごとの調整頻度 (PMW)

CEJC データの美化語は、会話形式では「雑談」での使用が最も多く、「会議・会合」で最も少ない結果となった。ここで、「雑談」と「会議・会合」それぞれの高頻度美化語を比較すると(表 16)、「雑談」の美化語には、「食」に関する美化語(塗りつぶし部分)が多数含まれているほか、「お風呂」「お土産」「お花」など、身近で即物的な美化語が使われ、「雑談」が「食」を中心に身近な話題で展開することが想像できる。一方、「会議・会合」の美化語には、「食」関連の語も含まれるものの、「お互い」「お知らせ」「お話し」などの観念的な語が上位に入るのが特徴と言える。

表 16 CEJC における「雑談」と「会議・会合」の高頻度美化語

No	雑談		会議・会合	
	美化語	頻度	美化語	頻度
1	お金	345	お金	62
2	お茶	315	お互い	23
3	お店	196	お昼	14
4	お酒	153	お菓子	13
5	おうち	123	お茶	12
6	お肉	115	お話し	11
7	お風呂	106	お知らせ	7
8	お皿	92	お店	6
9	お昼	89	お弁当	6
10	お弁当	79	お尻	5
11	お菓子	78	お盆	5
12	お水	68	おうち	4
13	お友達	67	お見積もり	3
14	お土産	66	お祭り	3
15	お湯	63	お酒	3
16	お互い	58	お得	3
17	お花	48	お友達	3
18	お墓	47	お礼	3
19	お寺	46	おばか	2
20	お仕事	45	お客	2

※塗りつぶしの項目は「食」関係の語

5.2.6 美化語が使われる話者間の関係性

CEJC データでは、総語数 2,419,171 語のうちの 2,045,671 語については、「家族・親戚関係」「友人知人」「仕事関係」など、話者間の関係性について特定し、メタ情報として提供している。その情報を活用して、美化語がどのような関係の話者同士の間で使用されるかを分析する。

CEJC データの美化語の頻度を、話者間の関係性ごとに見ると表 17 のようになる。これをもとに話者間の関係性ごとに調整頻度を算出し比較すると、図 7 のようになった。

表 17 CEJC における話者間の関係性ごとの美化語の粗頻度と総語数

話者間の関係性	粗頻度	総語数
家族・親戚関係	1,978	694,623
友人知人	1,479	774,122
仕事関係	642	478,148
先生生徒	36	33,090
サービス場面関係	137	65,688
合計	4,272	2,045,671

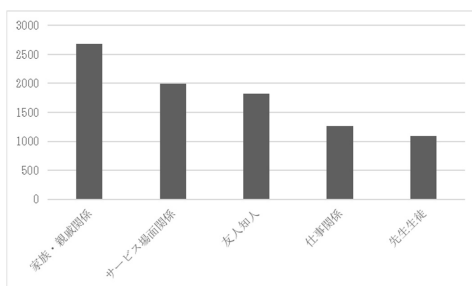


図 7 CEJC における話者間の関係性ごとの美化語の調整頻度 (PMW)

これを見ると、CEJC データの美化語は、「家族・親戚関係」で最も多く使われ、次いで、「サービス場面関係」「友人・知人」「仕事関係」「先生生徒」の順に頻度が低くなっている。上下親疎の観点から見て、最も敬意レベルが低いと考えられる「家族・親戚関係」で、美化語が最も使われるということについては、どのように説明できるだろうか。それを探るため、表 18 に、最も頻度が高い「家族・親戚関係」の具体的な高頻度語彙とその頻度および美化語出現率を示し、それに対応する「仕事関係」の美化語の頻度と美化語出現率も示した。「仕事関係」は、「家族親戚関係」に比べ、敬意レベルは高いと捉えられる。ここで、最も頻

表 18 CEJC の「家族親戚関係」の美化語と「仕事関係」の美化語の頻度と美化語出現率

No	家族親戚関係の 美化語	粗頻度	調整頻度 (PMW)	美化語 出現率	No	仕事関係の 美化語	粗頻度	調整頻度 (PMW)	美化語 出現率
1	お茶	174	▲250	▲86	3	お茶	26	54	84
2	お金	139	▲200	▲82	1	お金	82	171	74
3	お店	99	▲143	▲67	8	お店	22	46	47
4	お肉	78	▲112	▲45	9	お肉	16	33	34
5	おうち	57	▲82	12	4	おうち	23	48	▲14
6	お昼	49	▲71	75	7	お昼	22	46	▲81
7	お菓子	48	▲69	65	11	お菓子	13	27	▲93
8	お酒	45	▲65	▲53	6	お酒	22	46	42
9	お風呂	45	▲65	▲70	21	お風呂	8	17	62
10	お土産	42	▲60	▲100	75	お土産	2	4	29
11	お友達	39	▲56	▲21	26	お友達	7	15	20
12	お皿	35	▲50	▲69	27	お皿	6	13	60
13	お弁当	34	▲49	57	12	お弁当	12	25	▲71
14	お墓	34	▲49	▲87	41	お墓	4	8	67
15	お湯	32	▲46	86	28	お湯	6	13	▲100
16	お互い	29	42	97	2	お互い	27	▲56	▲100
17	お盆	27	▲39	93	78	お盆	2	4	▲100
18	お水	26	▲37	▲17	24	お水	7	15	2
19	お箸	25	▲36	▲47	20	お箸	8	18	36
20	お花	24	▲35	34	10	お花	15	31	▲43

注) 「家族親戚関係」と「仕事関係」の値を比較して大きい値に▲を付与した。

度が低いのは「先生生徒」関係だが、比較対象として総語数が極端に少ないため、次に頻度が低い「仕事関係」を比較の対象とする。

「家族親戚関係」の美化語の上位 20 語の調整頻度を見ると、「お互い」を除いて「家族親戚関係」の美化語の値の方が大きい。その理由として、「お」が使われやすい何らかの要因がある可能性がある一方で、単純に、その言葉が使われる話題の会話が多く展開したというトピックスの影響の可能性も否定できない。そこで、美化語出現率（ここではそれぞれ「家族親戚関係」と「仕事関係」にデータを限定した中での美化語出現率）を見ると、多くの語で「家族親戚関係」の方が大きい値を示している。このことから、「家族親戚関係」で美化語が使われやすい状況が「ある」と判断できる。その要因としては、「家族親戚関係」の会話では、主婦（主夫）が美化語を多用し、周辺の家族・親戚がそれに追従する状況が考えられること、「家族親戚関係」では、子どもが介在することが多く、美化語が親愛語（幼児語）に隣接する形で使われる状況が起きやすい可

能性があること、更には、心理的距離が遠い相手に対して配慮や敬意を示すという尊敬語や謙譲語などの狭義敬語とは違い、美化語が事物に対する愛着や親しみの自己表現として使われている可能性を示唆するものである。この点については、計量的な分析では限界があり、さらに詳細な質的な調査が必要であろう。

6. 結論

本稿では、2022年3月に本公開されたCEJCを対象に分析を行い、現代日本語の日常会話における「美化語」の使用の実態を明らかにすることを試みた。まず、設定した2つの研究課題のうち、研究課題1については、1)「お」が和語名詞に付く美化語が最も多く(3,354語、66%)、次いで「お」が漢語名詞に付く美化語が多いこと(1,552語、31%)、2)頻度と美化語出現率(慣用度)によって、CEJCの美化語は5つのクラスターに分類することができること、また、研究課題2については、1)世代差と性差については、10代を除き女性の頻度が男性を上回り、美化語の使用を牽引しているのは女性であること、男女とも成人後採用の過程が見られるものの、50代以降の使用傾向に男女差があること、若年層では、美化語の男女差は縮まる傾向にあること、2)職業別では、「就学前の子ども」の頻度が最も多く、次いで「専業主婦・主夫」が多いこと、3)会話形式別では、「雑談」での使用が多く、「会議・会合」では少ないこと、4)話者間の関係性では、「家族・親戚関係」「サービス場面関係」「友人・知人」「仕事関係」「先生生徒」の順に頻度が高いことなどが分かった。

7. おわりに

本稿では、分析データとして『日本語日常会話コーパス』(CEJC)を用い、2つの研究課題を明らかにすることで、現代日本語の日常のコミュニケーションにおける美化語の使用の実態を捉えることを試みた。美化語の使用傾向には、語種ルールやそれぞれの語の慣用度といった言語内の要因に加え、年代や性差、職業や会話形式、話者間の関係性といった言語外的な要因も関連していることが改めて示唆された。

一方、美化語の使用傾向に関しては、表現主体の生活圏の違いやそれに伴う方言の影響なども考えられるほか、実際には、表現主体がどのような言語環境で育ってきたかや、どのようなコミュニケーションのスタイルを好むかといった個人差も大きく、多様な使われ方が存在し得ると考えられる。学習者に対しては、美化語の定義やカテゴリーを整理して示した上で、コーパス分析の頻度が示す社会全体の美化語の使用傾向を

伝えると同時に、自己表現としての使い方も含めて、美化語の使用例を具体的に例示し、実際のコミュニケーションにつなげていくことが求められる。学習者に美化語をどのように導入するのかや、どのような実践の場を提供していくのかについては、今後の課題としたい。

参考文献

- 井上史雄（2007）『その敬語では恥をかく！』PHP研究所
- 井上史雄（2010）『『お』の使い分けにみる美化語の循環過程—『お使い分け』データの解釈—』『日本語の研究』6-4 pp.63-78
- 井上史雄（2011）『経済言語学論考—言語・方言・敬語の値打ち』明治書院
- 井上史雄（2022）「2.1.6 現代（未来）の敬語の変化」荻野綱男編『敬語の事典』朝倉書店
- NHK放送文化研究所（1951）『日本語アクセント辞典』NHK出版
- 郭碧蘭（2011）「日本語教育の観点からみた美化語「お」の習得問題」『真理大学人文学報』11 pp.133-144
- 川口義一（1986）「日本語初級教科書における敬語の扱われかた」『日本語教育』61 pp.126-139
- 川口義一（2014）「美化語」佐藤武義・前田富祺他編『日本語大辞典（下）』朝倉書店 pp.1682-1683
- 菊地康人（1994）『敬語』角川書店
- 菊地康人（2022）「1.2.6 美化語」荻野綱男編『敬語の事典』朝倉書店
- 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉・渡邊友香（2022）『『日本語日常会コーパス』設計・構築・特徴』（国立国語研究所「日常会話コーパス」プロジェクト報告書 6）
- 国語審議会（1952）「これからの敬語」
https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/si-saku/joho/joho/kakuki/01/tosin06/index.html
- 沢井康子（1991）「ニーズ分析」日本語教育学会編『日本語教育機関におけるコースデザイン』凡人社
- 柴田武（1957）『『お』の付く語・付かない語』『言語生活』9 pp.40-49 筑摩書房
- 寿岳章子（1964）「お電話でご返事」『口語文法講座 3 ゆれている文法』明治書院
- 滝島雅子（2018）「日本語教科書における「美化語」分析—BCCWJと教科書データの語彙の比較から—」『2018年度日本語教育学会秋季大会予稿集』
- 滝島雅子（2020）「待遇コミュニケーションにおける美化語の表現意識・理解

意識：テレビにおける美化語の分析から」『待遇コミュニケーション研究』
17：1-17

滝島雅子（2022）「日本語学習者に対する美化語とその学習に関するアンケート調査－日本語母語話者への調査結果との比較から－」2021年待遇コミュニケーション学会春季大会・秋季大会研究発表要旨『待遇コミュニケーション研究』19：132

田中章夫（1972）『『お』のつく言葉・『ご』のつく言葉』平井昌夫編『現代の敬語とマナー』42 至文堂

辻村敏樹（1967）『現代の敬語』共文社

辻村敏樹編（1991）『敬語の用法』角川書店

文化審議会（2007）「敬語の指針」

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/keigo_tosin.pdf_o_tosin.pdf

文化庁（1997）『国語に関する世論調査（平成9年1月調査）』文化庁国語課

文化庁（2006）『平成17年国語に関する世論調査（平成18年2月調査）日本人の敬語意識』国立印刷局

鐘水兼貴（2021）「『国語に関する世論調査』に見る属性差」『日本語学』第40巻（2）：116-124

関連 Web サイト

国立国語研究所 コーパス検索アプリケーション『中納言』

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>（2022年12月10日確認）

国立国語研究所『日本語日常会話コーパス』（Corpus of Everyday Japanese Conversation, CEJC）<https://chunagon.ninjal.ac.jp/cejc/search>
（2022年12月10日確認）

謝辞

本研究は、国立国語研究所による『『日本語日常会話コーパス』短単位語彙表・語数表 ver.2022.09』を利用した研究成果の一部である。また、本稿は、2021年度「公益信託田島毓堂語彙研究基金」の助成を受けて行ったものである。この場を借りて、御礼申し上げる。

（たきしま まさこ／早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程単位取得退学・NHK放送研修センター）